

2015年6月5日(金)

# 未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第70号



## 今、何の力を身につけるか？

### 指導・支援の目標は変化していきます

2年前、大阪教育大学名誉教授で、大阪医科大学LDセンター顧問でもある竹田契一先生に

### 「就労生活支援を見通した在学中の指導・支援」

のタイトルで講演をして頂きました。下はその資料の一部です。

#### 思春期はソーシャルスキルから

1. 小学校はまずアカデミックスキルを徹底
2. 幼小中学校はコミュニケーションスキルを家庭で行う
3. 中学校以降の中心はソーシャルスキルの確立  
(友達関係、社会のルールなど)
4. 周りに合わせる力、周りの気持ちの読み取りなど
5. 高校生では就労を視野にライフスキルの導入も

4つのスキルを少し解説します。

アカデミックスキル……ここでは読み書き計算など基礎学力  
コミュニケーションスキル……会話を中心とした気持ちのやりとりをする力

ソーシャルスキル……日常生活や人間関係の中で適切な言動をとる実践的な力

ライフスキル……生活(料理、お金、衛生等)、余暇、異性との付き合い方など、自立をかなえる力

学校で勉強する内容という、イメージ的にはアカデミックスキルを真っ先にイメージしやすいと思います。

われわれは支援部という部です。仕事の一部に地域(三田市)の小中学校に出向き、通級指導の様子を見せていただく機会がたくさんあります。その子のアカデミックスキル向上のために、担任や通級の先生、保護者も本人も一緒になって宿題や学習の質や量、理解しやすい方法を探し、懸命に努力する様子を目の当たりにしてきました。本当に頭の下がる思いです。きっと本校に来ている生徒たちも同じような小中学校時代を送ったのではないのでしょうか？

こうして小学校では、アカデミックスキルを徹底してきたことと思います。

このアカデミックスキルは、全てのスキルの土台になります。その土台の上に他のスキルが積み上がります。

逆に言うと、社会で生きていく為に必要な力を積むための土台作りを小学校の時に充実させてきた事になります。

私の目から見てもアカデミックスキルの土台ができあがっていない生徒は本校にはほとんどいないと言えます。

「就労生活支援を見通した在学中の指導・支援」という視点で見るとつきたい力、指導・支援の目標がガラリと“変化”してきます。アカデミックスキルの土台の上にソーシャルスキル、ライフスキルを積み上げていきましょう。授業を含む学校生活は、こちらのスキルを主眼に行われています。

- ・数学は電卓を使つての消費税計算
- ・国語では履歴書記入に備え丁寧に書字する学習
- ・英語は東京オリンピックをイメージし、道案内を英語でする練習
- ・家庭では消費生活やメモの学習を学び、家事の実践
- ・トラブルがあったら、ソーシャルスキルを学ぶ良い機会と捉え、解決方法を考えていく学習(練習)

しかし、“変化”が苦手な本校生もいます。今はアカデミックスキルよりソーシャルスキルを。挨拶や譲り合いや、温かい人間関係を大切にできるように。ドリルより家事を。テスト(も大事ですが)より実習を。“変化”がスムーズにいくよう、保護者の方々のお力もお貸し下さい。

## ソーシャルスキルとは

「生活や人間関係の中で、適切な言動をとる実践的な力」なのですが、もう少し詳しく紹介します。

ソーシャルスキルは、社会技能や社会的スキルなどと呼ばれる事や、対人スキルと同じ意味で使われる事もあり、はっきりとは決まっていません。コミュニケーションスキルも含む場合がほとんどです。

人間関係をうまく築けない子が社会全体に増えており、SST(ソーシャルスキルトレーニング)が必要になっています。学校は同級生や先輩、後輩、教師など大勢の人と関わる場所です。ソーシャルスキルを築くうえで影響の大きい場所のひとつなので重要視しています。下に例を書き出してみましたが、これだけではありません。

#### ①基本のソーシャルスキル

あいさつをする、ルールやマナーを守る、時間や順番を守る、基本的な生活習慣・身だしなみ など

#### ②対人のソーシャルスキル

会話をする、人の気持ちを考える、自分の意見を上手に伝える、説明するなど

#### ③感情のソーシャルスキル

感情に気付く、コントロールする、我慢する、上手に伝える、プラス思考、ストレス解消など

来週からは慣れない現場で気を遣いながらの実習が始まります。

ソーシャルスキルトレーニングとしては絶好の場。貴重な体験になりますように。

